

監督

一六	九	大	帝國國策遂行要領	御前會議
一〇二	三		南洋諸島行政要領再檢討	
一〇三	〇			
一三	一		對英米南開戰ニ關スル件	

外務省

調査資料ノ件

基礎的資料蒐集ニ關シ第一復員省總務局長ヨリ提出アリタル蒐集ヲ要スル材料左ノ如シ

年	月	件	名
一五	七		基本國策要綱
			情勢推移ニ伴フ時局處理要綱
			日獨伊三國同盟ニ關スル件
			支那事變處理要綱
			日華基本條約ニ關スル件
			對佛印、泰施策要綱
			對獨伊「Y」交渉要綱
			南方施策促進ニ關スル件
			情勢推移ニ伴フ帝國國策要綱
			泰事關スル對英交渉要綱

二一、二二、二二

内閣
連絡會議
御前會議
連絡會議
御前會議

外務省

REEL No. A-1212

0 0 V 0

基備的資料蒐集状況		昭和二一、三、八	
年月日	件名	決定	状況(○印ハ發見)
一五、二六	基本備置要綱	閣議	○(八月一日公表)
九	情報推移ニ伴フ時局應處要綱	連絡會議	未(配属等ニテ整理中)
九、四	日獨伊極強化ニ關スル件	四相會議	○(説明書附)
九、一九	支那事變應處要綱	連絡會議	○
一、二、一五	支那事變應處要綱	會議	○
一、二、一五	日華基本條約		○
一、二、一五	一、日滿華共同宣言 二、日本對中華民族關係基本綱 三、附屬規定書 四、附屬規定書ニ關スル日華兩國公使等員間了解事項 五、附屬協定書 六、附屬協定書		
一、二、一五	八、補遺交換公文(甲) 八、補遺交換公文(乙) 附屬事務改革 附屬會議要綱ニ關スル覺書		
一六、一、三〇	對佛印、泰總策	連絡會議	未(外務ニテ整理中)
一六、一、三〇	對獨伊「ソ」交渉要綱		○(外務ニアルコト確實)
一六、一、三〇	南方總策促進ニ關スル件		未(配属等ニテ整理中)
一六、一、三〇	情報推移ニ伴フ時局應處要綱	連絡會議	○
一六、一、三〇	泰ニ關スル對英交涉要綱		未(外務ニテ整理中)
一六、一、三〇	對獨伊總策進行要綱		○
一六、一、三〇	對英米南總策ニ關スル件		○
一六、一、三〇	總策進行要綱再檢討		○(題目ハ外務ニ在リ)
一六、一、三〇	對英米南總策ニ關スル件		○

陸軍

大東亞戰爭開戦経緯詳説(再二案)

直接関係の重要国を注記

大東亞戰爭開戦経緯詳説目次

第一節 開戦の経緯
一 世界情勢ノ推移ニ伴フ時局處理要綱ノ決定

第二節 「世界情勢ノ推移ニ伴フ時局處理要綱」ニ基ク時局處理ノ進展
一 日獨伊三國同盟條約ノ締結
二 日ソ中立條約ノ締結
三 對支政策
四 對南方政策
五 南方政策ニ對スル大本營ノ態度確定

第三節 日米交渉ノ開始

第四節 獨ソノ侵襲ニ伴フ帝國國策ノ確立

第五節 南滿印進駐ノ経緯

第六節 九月六日帝國國策遂行要領ノ決定

第七節 十一月五日帝國國策遂行要領ノ決定

第八節 十二月一日開戦決定

第2次近衛内閣「世界情勢」の決定

昭和十五年七月第二次近衛内閣成立、時恰七第二次歐洲大戰ハ獨逸ノ勃
佛決定的勝利ヲ以テ戦局ニ一投附シ劇ヒリ奇變ハ内閣成立ト共ニ
基本國策妥議(昭和一五、七、二六閣議決定、別冊第一參照)
ヲ決定スルト共ニ大本營政府連絡會議ニ於テ右ト表裏一體タルベキ
「世界情勢ノ推移ニ伴フ時局處理要綱」(昭和一五、七、二十連絡會議
決定、其骨子別冊第二參照)
ヲ確定シ

- (1) 第三國ノ侵奪行爲禁絶ヲ主眼トスル對支新策ヲ強化シ支那事態ノ急速
處理ヲ圖ルト共ニ
- (2) 併シテ支那領土侵奪ノ維持ヲシテ南方領土ノ確保ヲ期スル方針ニ
シテ

此の決定は、支那の領土侵奪を維持し、南方領土の確保を期する方針に
シテ、第三國の侵奪行為を禁絶することを主眼とする。支那の事態を急速
に処理することを期す。併し、支那の領土侵奪を維持し、南方領土の確保
を期する方針にシテ、第三國の侵奪行為を禁絶することを主眼とする。

(1) 支那領土侵奪ノ維持ヲシテ南方領土ノ確保ヲ期スル方針ニシテ

「ソ」國交ノ飛躍的調整ヲ圖ルト共ニ

- (2) 露印香港及支那領土ニ對スル侵奪禁絶、政治表態ノ適策ヲ強化シ
- (3) 又對露印外交ヲ強化シテ重要資源ノ取得ヲ期スルベシ

第二節 世界情勢ノ推移ニ伴フ時局處理要綱ノ決定

日獨伊三國同盟條約ノ締結ニ依リ、支那領土侵奪ノ維持ヲシテ南方領土ノ確保ヲ期スル方針にシテ、
第三國の侵奪行為を禁絶することを主眼とする。支那の事態を急速に処理
することを期す。併し、支那の領土侵奪を維持し、南方領土の確保を期
する方針にシテ、第三國の侵奪行為を禁絶することを主眼とする。

「日獨伊三國同盟條約」(昭和一五、九、四、閣議決定)

昭和十五年九月二十一日日獨伊三國同盟條約締結

九三、別冊第四

①
 同條約ニ於テ帝國ノ意圖ンタル所ハ東亞ニ於ケル新秩序ヲ建設シ米國
 ノ歐洲戰爭參入ヲ防止シ仍テ以テ戰禍ノ世界ニ波及スルヲ阻止スルニアリ
 タリ而シテ當初ニ於テハ同條約ニ「ソ」聯邦ノ參加ヲ期待スル由リ
 リタル次第ナリ
 ②
 達成ニ導カントハ平行的希望ヲ有シ居リタルモノナリ

三 日「ソ」中立條約ノ締結
 帝國ハ昭和十六年二月
 「對獨伊「ソ」交渉要綱」(昭和一六、二、三連絡會議決定、其骨子
 別冊參照)

③
 三月下旬松岡外相ヲ歐洲ニ派遣シ四月十三日
 「ソ」中立條約ヲ締結セリ
 蓋シ同條約ハ「ソ」ランテ三國同盟ニ同調セシムル目
 以テ獨「ソ」

不可侵條約ト對應スル意味合ニ於テ締結セラレタルモノナル
 支那事變ノ急遽處理コソハ事變勃發以來帝國ノ採リ來レル内外應變ノ
 骨幹ニシテ在リテハ國內諸應變ノ革新整備ニ努メ外ニ對シテハ前
 述ノ如キ主要外交應變ヲ展開スルト共ニ直接支那方面ニ對シテハ俄
 ヲリスル接應物資禁絶ノ目的ヲ以テ昭和十五年九月既政府トノ通牒ノ
 下ニ北滿洲印ニ兵力ヲ進駐セシメ且英國ランテ「ビルマル」派意ヲ導キヤンムル等
 時的閉鎖及之カ監視ノ爲軍事機體ノ「ビルマル」派意ヲ導キヤンムル等
 ノ諸應變ヲ推化セリ

之ヨリ「ソ」昭和十四年十二月任請衛ノ重慶駐出ニ對應シ
 近衛聲明(昭和一四、一二、二二別冊參照)
 又「ソ」前來汪ヲ中心トスル國民政府ヲ以テ新中央政府トシ之ガ育成強

化ニ努メシカ事變ノ速急解決意ノ如クナラズ帝國ノ事變對策ニ關シ
 乎タル大方針ヲ定ムベキ時期ニ達シ茲ニ
 「支那事變處理要綱」(昭和一五、一一、一三 御前會議ヲ經テ決定
 別冊第 七 參照)

決定ヲ見タリ即チ
 (1) 昭和十五年十一月末ヲ目途トシ汪蔣合作ヲ立南トシ倭日締結セ
 タル日華基本條約ノ基本條件ヲ基礎トスル對重慶和平工作ヲ促進シ
 (2) 右不成立ノ場合ニ於テハ對支長期大持久戰ノ態勢ニ轉移シ國民政府
 ノ育強強化ヲ圖ルト共ニ帝國國防ノ彈力ヲ恢復スル
 ニ決シタル次第ナリ
 次テ南京ニ於テ
 (1) 滿洲國ノ承認
 (2) 抗日政敵ノ放棄、善隣友好共同防共
 (3) 北支蒙疆駐屯、海南島及南支沿岸特定地點艦船駐留

(二) 前項地點ニ於ケル國防上必要資源ノ開發利用
 (三) 三角地帯ノ保障駐兵
 (四) 日支ノ緊密ナル經濟提携
 (五) 日支ノ緊密ナル外交提携
 等ヲ骨子トスル
 日華基本條約(昭和一五、一一、一三)南京ニ於テ締結、別冊第 八
 參照)
 ヲ締結スルト共ニ
 「日滿滿共同宣言」(別冊第 九 參照)
 ヲ發出
 而シテ右決定ニ基キ對重慶和平工作ニ遂ニ成功ヲ見ス帝國內閣對南方
 ニ基キ長期持久態勢ニ轉移セリ
 對南方施策
 「世界情勢ノ推移ニ伴フ時局處理要綱」ニ基ク帝國ノ對南方施策強化

南京政府成立後、日華基本條約締結後、日滿共同宣言發出後、對重慶和平工作ニ遂ニ成功ヲ見ス帝國內閣對南方ニ基キ長期持久態勢ニ轉移セリ

支那事變處理ノ促進ト自給自足態勢ノ整備ヲ根本目的トシテ先極力外資ヲ排斥シテ自給自足ノ態勢ヲ整備スルニ努ムルヲ要ス

武力ヲ有するトシテ強力外資ヲ排斥シテ自給自足ノ態勢ヲ整備スルニ努ムルヲ要ス

ハ支那事變處理ノ促進ト自給自足態勢ノ整備ヲ根本目的トシテ先極力外資ヲ排斥シテ自給自足ノ態勢ヲ整備スルニ努ムルヲ要ス

テ平和的解決ヲ方針トシテ平和的解決可能ノ地域的限度ガ併印及泰ニ止マルヘキ點ニ際シテハ大本營政府間意見ノ一致トシ所ナリ

帝國ハ東洋進駐ヲ目的トシテ北極部印進駐ニ依リ結果トシテ南方進出ノ端緒ヲ得タルガ昭和十五年十一月佛印泰國境紛争勃發スルヤ之ガ紛争調停ヲ策スルト共ニ之ヲ誤機トシテ佛印泰ト帝國トノ緊密關係ヲ確立スベク

「對佛印泰施策要綱」(昭和一六、二、一) 運給會議決定、別冊參照

「對佛印泰國境紛争調停要綱」(昭和一六、二、二、六) 運給會議決定、別冊參照

佛印泰國境紛争調停要綱

「對佛印泰國境紛争調停要綱」(昭和一五、一〇、二五) 閣議決定、別冊參照

「對佛印泰國境紛争調停要綱」(昭和一五、一〇、二五) 閣議決定、別冊參照

五 南方施策ニ對スル大本營ノ態度確立

此間大本營陸海軍部ニ於テハ主トシテ米英トノ關係ニ於ケル南方問題ノ解決ニ關シテ思想ノ調整ヲ圖ル所アリシガ屢次ノ折衝ヲ經テ昭和十六年四月十七日大本營陸海軍部ノ對南方施策ニ關スル基本思想ノ既定ヲ見ルニ至レリ

其ノ骨子トスル所ハ支那事變處理ノ促進ト帝國ノ自存自衛ノ爲綜合國防力ノ擴充ヲ目的トスルモノニシテ之ガ貫徹ハ外交的施策ニ依ルヲ本則トシ

(1) 米英蘭ノ對日禁輸ニ依リ自存ヲ脅威セラレタル場合及

(2) 米英蘭支共同ノ對日包圍態勢加重シ帝國國防上忍ビ得サルニ至リタル場合

之カ打開ノ方策ナキニ於テノミ自存自衛ノ爲メ武力ヲ行使セントスルモノナリ

是ニ於テ歐洲ニ於ケル獨逸ノ優勢ニ伴ヒ之ヲ好假トシテ南方間ニテ解決スベシトノ思惟ハ擴張主義ニ歸ス

右ハ大本營ヲ中心トスル總務各部ニ於ケル徹底且詳確ナル国力檢討及武力行使ノ可否ニ關スル研究ノ結果ニ歐洲ニ於ケル情勢ノ變化ニ基クモノナリ

⑤

三節 日本交渉ノ開始

昭和十五年末頃ヨリ日本間ニ於テ秘密裡ニ話合行ハレタル事傳ナル所日米外交改善ノ目的ヲ以テ翌年初頭野村海軍大將駐米大使ニ任命セラレタリ

同大使ハ四月ニ入り「ハル」國務長官ト非公式會議ヲ進メ四月十八日日本兩國ノ抱懷スル國際觀念及國家觀念

(1) 日本兩國政府ノ對歐洲態度

(2) 支那事變ニ對スル兩國政府ノ關係

(3) 太平洋ニ於ケル海軍兵力及航空兵力並海運關係

(4) 日本兩國間ノ通商及金融提携

(5) 南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟活動

(6) 太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針

等廣汎ナル事項ニ亘リ居レリ

⑥

當時ニ於ケル米國ノ情勢ハ其ノ準備未ダ兩伴同時作戦ノ準備整ハス國防
産業ノ整備完カラス[○]國內異議ノ動向モ必ズシモ猶一致ヒズ一萬端ノ對
英逆對續ハ著々成功シ對英援助強化ノ要切ナルモノアリシガ如ク米國ハ
先[○]「ヒットフー」打倒ノ意當リ太平洋ノ政治的安定ヲ圖ルヲ得兼ト
考ヘ尤儀ニ於テ帝國[○]三國同盟[○]ニ對シテ日米[○]同盟[○]トモト觀察セラレタリ
政府及大本營ハ三國同盟ノ精神ニ違反ヒズ且支那半島ヲ完遂シ大東亞共
榮國建設ノ自主性ヲ喪失セザルノ範圍ニ於テ右日米諒解[○]案[○]ヲ期シ適
々訪歐歸還途上ニアリシ松岡外相ノ歸朝ヲ待チ受ケタリ[○]
向[○]外相ハ四月二十二日歸朝[○]後前記條件ヲ容ルル[○]交渉[○]安否ノ可[○]非[○]性[○]
ニ對シ熱考ヲ重ヌル一方[○]對[○]內[○]諒[○]解[○]案[○]中[○]間[○]提[○]案[○]ト[○]シ[○]テ[○]日[○]米[○]中[○]立[○]條[○]約[○]提[○]議[○]ス[○]
等ノ種[○]類[○]ヲ[○]辯[○]論[○]シ[○]五[○]月[○]十[○]二[○]日[○]ニ[○]至[○]リ[○]爾[○]ク[○]日[○]米[○]諒[○]解[○]案[○]ニ[○]對[○]ス[○]ル[○]一[○]部[○]ノ[○]修[○]正[○]ヲ
伴[○]フ[○]帝[○]國[○]政府[○]ノ[○]回[○]訓[○]ヲ[○]發[○]シ[○]タ[○]リ
爾[○]後[○]對[○]米[○]交[○]渉[○]ハ[○]政[○]府[○]大[○]本[○]營[○]密[○]ナル[○]連[○]絡[○]ノ[○]下[○]ニ[○]親[○]意[○]之[○]カ[○]促[○]進[○]ニ[○]努[○]メ[○]タ[○]ル
モ[○]主[○]ト[○]シ[○]テ

(4) 支那ニ於ケル日本ノ駐兵問題
回 支那ニ於ケル通商無差別問題
ハ 三國同盟條約ニ關係スル自衛權ノ解釋問題
ニ對シ彼我意見ノ一致ノ氣ルニ至ラザリシガ獨「ソ」開戰等ノ新事態モ
アリ不測ノ變變ハ遂次硬化シ帝國[○]南[○]部[○]開[○]闢[○]ニ[○]進[○]駐[○]ス[○]ル[○]ヤ[○]交[○]渉[○]ハ[○]十[○]時[○]中[○]
絶[○]エ[○]リ[○]
此間對米交渉ニ關シ閣内意見ノ分岐ヲ見タル爲ニ二次近衛内閣總辭職シ
七月十八日豊田海軍大將ヲ外相トスル第三次近衛内閣成立セリ
新内閣ハ新ナル熱意ヲ以テ日本交渉妥協促進ニ努力セルモ南部佛印進駐
ノ公表ニ伴フ不測ノ對日脅威[○]ニ[○]依[○]リ[○]彼[○]我[○]ノ[○]交[○]渉[○]ハ[○]意[○]大[○]ナル[○]難[○]關[○]ニ[○]逢[○]
着[○]セ[○]リ[○]茲[○]ニ[○]於[○]テ[○]八[○]月[○]二[○]十[○]六[○]日[○]近[○]衛[○]總[○]理[○]ハ[○]米[○]大[○]統[○]領[○]宛[○]所[○]謂[○]近[○]衛[○]「[○]メ[○]ソ[○]ヒ[○]」
ジ[○]」ヲ[○]發[○]シ[○]大[○]局[○]的[○]見[○]地[○]ニ[○]基[○]ク[○]日[○]米[○]兩[○]巨[○]頭[○]會[○]談[○]ヲ[○]提[○]議[○]セル[○]モ[○]遂[○]ニ[○]未[○]測[○]ノ[○]容[○]
ル[○]所[○]ト[○]ナ[○]ラ[○]ズ[○]交[○]渉[○]ハ[○]何[○]等[○]進[○]歩[○]ヲ[○]示[○]サ[○]ザ[○]リ[○]キ

第四節 獨「ソ」開戦ニ伴フ帝國政策ノ確立

支那事變勃發以來在支米英德露ヲ中心トスル帝國ト米英トノ葛藤ハ益々紛糾スルト共ニ佛印、泰ニ對スル帝國ノ施策モ亦米英ノ妨害工
作ヲ受ケ南印交渉モ亦進展セズ所謂 A B O D 包圍圈宣傳セラルル情
勢トナリ帝國ノ支那事變處理ハ英米ノ援將強化モ手傳ヒテ前述ノ如
ク長期持久ノ形勢トナリ前途ノ探測困難トナル一方帝國カ既定國策
ヲ遂行センカ爲ニ必要ナル資材等ノ海外入手ハ逐次困難ヲ加フルニ
ト確實トナレリ新カレ情勢ノ下ニ獨「ソ」開戦ノ事態ニ直面セリ
即チ獨「ソ」開戦ハ三國同盟ハ「ソ」加入ノ希望ヲ失フニ至リ
在「ソ」基礎トスル支那事變處理、日本外交調整、世界動亂擴大防止等
ハ外交的構想ハ多大ノ影響ヲ蒙ルニ至レルモ他面北邊ノ管収カ日「ソ」
中立條約、其ニ輕減セルニ至レルモ亦事實ナリ茲ニ於テ
「情勢ノ推移ニ伴フ國策要綱」(昭和一六、七、二 御前會議ヲ經
テ決定、別冊第十三參照)

決定セラル即チ帝國ハ

- (1) 世界情勢變轉ノ如何ニ拘ラス大東亞共榮圈ヲ建設シ以テ世界平和ノ確立ニ寄與スヘク
- (2) 依然支那事變處理ニ邁進シ
- (3) 且目存自衛ノ基礎ヲ確立スル爲南方進出ノ歩ヲ進メ又情勢ノ推移ニ應シ北方問題ヲ解決スルノ方針ノ下ニ

(1) 支那ニ對シテハ南方要域ヨリノ壓力強化並對重要交戰權行使及歐注租界接收ノ適時新行等ニ依リ重要政權ノ屈伏ヲ促進シ

(2) 南方ニ對シテハ「對佛印泰施策要綱」及「南方施策促進ニ關スル件」(廣出)ニ依リ南進ヲ強化スルニ必要ナル外交交渉ヲ行ハシメ

(3) 北方ニ對シテハ獨「ソ」戰ニハ介入スルコトナク極東情勢ノ變轉ニ對應シ得ル武力的準備ヲ整ヘトスルニ在リ

ハソノ國家ニ對シテハ必要ナル外交交渉ヲ行ハシメ北方問題ヲ解決セン

第五節 南部佛印進駐ノ経緯

帝國ノ佛印泰紛争調停成功ニ依リ帝國ノ佛印泰ニ對スル指導的勢力
伸張スルニ至ルヤ、米英蘭ハ南方諸地域ニ於ケル設備強化ニ勤ムル
ト共ニ對日包圍陣ノ結成ヲ促進シ帝國ノ地歩モ再々進駐スルノ虞
ル情勢ヲ呈スルニ至レリ之レニ加フルニ當時帝國トシテ對日必要ナ
ル佛印泰ニ「ゴム」及「湯」等モ逐次入手難ニ陥リ又對日經濟交渉
ハ前遺ノ如ク長期ノ成果ヲ收ムルニ至ラス故ニ帝國日存ノ爲已ムラ
得ス佛印泰ニ於ケル帝國ノ地歩ヲ安固ナラシムル目的ヲ以テ
「南方施策促進ニ關スル件」(昭和一六、六、二五連絡會議決定、
別冊第十 參照) 七月三日
ヲ決定シ石ニ基キ佛印間共同防衛協定ヲ締結シ之レニ基キ平和程
ニ南部佛印進駐ヲ實行セリ

而シテ帝國カ南部佛印進駐ニ方針對米英戰争ノ決意ヲ全ク有ヒサリ
シハ南進第二ノ大目標トシテ佛印進駐ノ大目標トシテ之ニ依リ米
英ノ全面の經濟斷交ヲ受クヘントハ判斷シ居ラリテ大戦ニシテ事
態右判斷ノ如ク推移シタランニハ帝國ノ南方進出ノ根柢ハ佛印泰ノ
電匯ニ限定セテ居リタル筈ナリ

第六節 九月六日「帝國國策遂行要領」ノ決定

米英蘭ノ對日資産凍結ハ全面經濟斷交ノ結果ヲ齎ラン、爾來滿支及佛
印泰以外ノ地域トノ貿易ハ全面的に杜絶スルニ至リ帝國ハ目給目足
態勢完整ノ万途ヲ失フニ至レリ石ハ特ニ液体燃料ニ於テ甚タシク爾
他ノ生産力擴充及軍備充實ヲ犠牲ニシテ人造石油ノ過期的擴充ヲ圖
ルモ到底國內需用ヲ充足スルニ足ラス斯カル情勢ヲ以テ推移ヒンカ
帝國海軍ハ約二年ヲ出テ全ク機能ヲ喪失スルニ至リ又液体燃
料ヲ基礎トスル帝國ノ重要産業ハ一年ヲ出テ全ク瀕瀕状態ニ陥ル
ヘク所謂「チリ貧」ハ必至ノ情勢ト見ラレタリ是レ實ニ帝國死活ノ
重大事態ニシテ帝國ニ取リテハ米英ノ經濟斷交ハ即チ武力行爲ヲ伴

結果
決定
方針

ハサル軍艦布告ト關係ニシテ新クテ帝國ハ自存自衛ノ爲起タサルヲ
得サル故ニ退却マレタリト考ヘラレタリ一方南方ニ於ケル所謂A
BODノ對日包圍戰勢ハ益々強化セラレ且日本戰力ノ懸隔ハ加速度
的ニ増大スルコト大ク諸ルヨリ疎カトナレリ大本營政府ハ斯クノ如
キ情勢ニ於テ之カ行開ノ万途ニ關シ精魂ヲ傾ケテ慎重審議ヲ盡シタ
ル結果ニ帝國總務長官行要領「昭和一九一六、九、六 御前會議ヲ經テ
決定、別冊第十參照」

ヲ決定セリ即チ
帝國ハ自存自衛ヲ完ウスル爲米英ニ對シ外交手段ヲ盡シテ帝
國ノ要求貫徹ニ勤ト
但シ此ノ對米英關係ヲ詳セサルノ決意ノ下ニ概テ十月下旬ヲ
目途トシ戰爭準備ヲ完結
十月下旬頃ニ至ルモ帝國ノ要求達成ノ目途ナキ場合ハ直チニ對米
英開戦ヲ決意スルコト

⑧

ニ決シ併ヒテ外交手段ヲ盡シテ
而シテ本決定門ニ於テ外交手段ヲ盡シテ
モ帝國ノ要求貫徹ニ勤トシ外交手段ヲ盡シテ
サル場合ハ特ニ注意ナリ
國家帝國ハ對米英關係ノ妥協ニ努メタルモ十月下旬ニ至ルモ遂ニ
帝國ノ要求達成ニ至ラズ即チ十月二日接受セル米ノ口上書
ニ依レハ米國ノ態度ハ依然現實ヲ無視セルモノナルノミナラズ帝國
ノ立場ニ對シ理解ヲ示サス所謂四原則即チ
(1) 一切ノ國家ノ領土保全及主權ノ尊重
(2) 他國ノ國內問題ニ對シハ不干渉原則ノ支持
(3) 通商上機會均等ヲ含ム均等原則ノ支持
(4) 平和的手段ニ依リ現狀カ變更セラレル場合ヲ除キ太平洋ニ於ケル
現狀ノ不變更
ノ無條件受諾ヲ要求シ之ニ伴ヒ佛印ヨリノ即時撤兵ハ勿論支那ヨリ

全面撤兵並日支經濟特殊密關係ノ放棄等ヲ要求シ來レリ
 右ヲ受諾セハ帝國ノ正當ナル既得權益ヲ全面的放棄スルノ結果ヲ招
 來スルモノトシテ兩統帥部長及陸相ハ最早前記ノ期日迄ニ對米交渉
 交渉ノ日途ナキモノト判斷セルカ總理及外相ニ兩統帥日ヲ轄スルニ於テ
 日途アリト認メ海相ハ和戰ノ決ヲ總理ニ一任スルノ態度ヲ取リ茲
 ニ於テ第三次近衛內閣ハ總辭職ノ已ムナキニ至レリ

第七節 十一月五日「帝國國策遂行要領」ノ決定

東條內閣成立スルヤ大本營及政府ハ 大御心ヲ体シ九月六日決定ノ
 「帝國國策遂行要領」ニ拘束セラレス白紙ニ還リテ國策遂行ノ方途
 ニ關シ再檢討スルニ決シ之カ爲十月二十三日ヨリ 一月二日ニ亘リ
 連日大本營政府連絡會議ヲ開キ 一帝國國策遂行要領「昭和十六
 年十一月五日」ヲ決定セリ即チ

一、五 御前會議ヲ經テ決定、別冊第十卷參照

(1) 現下ノ危局ヲ打開シ自存自衛ヲ策スル爲ムヲ得サレハ對米英
 蘭戰爭ヲモ辞セズトノ決意ヲ爲シ最速ノ場合武力發動ノ時ヲ以テ
 一、二月初頭ト決定シ作戰準備ヲ完結スルモ
 (2) 十一月一日午前零時迄ニ交渉成立セハ武力發動ヲ中止スルコト
 決定シタルモノナリ

第八節 十二月一日開戰決定

大本營ハ「帝國國策遂行要領」ニ基キ對英米兩國ニ處スル作戰準備
 交渉ノ日途アリタルニテ政府ハ交渉ニ妥結スルニ努力シ十一月五日來朝大
 使ヲ野村大使援助ノ爲奉命ニ派遣シ此間野村大使ラント先ツ十一月
 七日甲案ヲ提示シ之レニ依リ妥結方ニ努力セシムル所アリタリ然レ
 トモ米國ハ支那問題ニ就キテハ態度依然變化ナク三國同盟問題ニ就

ヲ繼續スルトシ

曰先下継業ノ繼續ニ繼々スルニ交商成之可能ト曰ス(ノ)程度ノ讓與ヲ以テ

後ニ以テ其ノ好轉ヲ訂トシテ知照ノ乙案ヲ以テ之商シ事態ヲ手和理

トナリテ之ヲ

トナリテ之ヲ

...

其ノ結果

...

...

...

...

...

...

國策遂行要領再檢討
 (昭和十六年十月二十三日乃至三十日)
 昭和十六年十月二十三日以降連日連夜ニ亘リ政府大本營聯絡會議
 準備セラルレ根本國策ノ檢討ヲ行ヒ左記各項ニ亘リ慎重審議ヲ盡ス
 所アリ

國策遂行要領再檢討スヘキ要目

- 一 歐洲戰局ノ見透シ如何 (外 担 任 統)
- 二 對米英蘭戰爭ニ於ケル初期及數年ニ亘ル
 作戰の見透シ如何 (統)
- 三 右ノ場合支那非占領地區ヲ利用スル米英
 ノ軍事的措置判斷如何 (統)
- 四 今秋南方ニ對シ開戰スルモノトシテ北方
 ニ如何ナル關聯的現象生スルヤ (陸、海、外、統)

外務省

大正昭和
 64 年

- 四 對米英蘭戰爭ニ於ケル開戰後三年ニ亘ル
 船舶徵備量及消耗見込如何 (統)
- 五 右ニ關聯シ國內民需用船舶輸送力並主要
 物資ノ需給見込如何 (企)
- 六 對米英蘭戰爭ニ伴フ帝國豫算ノ規模、財政
 金融的持久力判斷 (廠)
- 七 對米英蘭開戰ニ關シ獨伊ニ如何ナル程度
 ノ協力ヲ約諾センメ得ルヤ (外、陸、海)
- 八 戰爭相手ヲ蘭ノミ又ハ英蘭ノミニ限定シ
 得ルヤ (外、統)
- 九 戰爭發起ヲ明年三月頃トセル場合
 對外關係ノ利、害 (海、外、陸、統)
- 主要物資ノ需給見込 (企、陸、海)
- 作戰上ノ利、害如何 (統)

外務省

右ノ考慮ノ開戦時期ヲ如何ニ定ムヘキ
右ニ關聯シ對米英蘭戰爭企圖ヲ拋棄シ人
造石油ノ増産等ニ依リ現状ヲ維持スルノ
能否及利害判断
一、對米交渉ヲ續行シテ九月六日 御前會
議決定ノ我最少限度要求ヲ至短期間内ニ
貫徹シ得ル見込アリヤ
我最少限度要求ヲ如何ナル程度ニ緩和セ
ハ妥協ノ見込アリヤ、右ハ帝國トシテ許
容シ得ルヤ
十月二日米覺書ヲ全的ニ容認セル場合帝
國ノ國際地位就中對支地位ハ事變前ニ比
シ如何ニ變化スルヤ

右ノ考慮ノ開戦時期ヲ如何ニ定ムヘキ

(陸、海、外、統)

右ニ關聯シ對米英蘭戰爭企圖ヲ拋棄シ人
造石油ノ増産等ニ依リ現状ヲ維持スルノ
能否及利害判断

(企、陸、海)

一、對米交渉ヲ續行シテ九月六日 御前會
議決定ノ我最少限度要求ヲ至短期間内ニ
貫徹シ得ル見込アリヤ

(外、陸、海)

我最少限度要求ヲ如何ナル程度ニ緩和セ
ハ妥協ノ見込アリヤ、右ハ帝國トシテ許
容シ得ルヤ

(外、陸、海)

十月二日米覺書ヲ全的ニ容認セル場合帝
國ノ國際地位就中對支地位ハ事變前ニ比
シ如何ニ變化スルヤ

(外、陸、海)

右ノ考慮ノ開戦時期ヲ如何ニ定ムヘキ
右ニ關聯シ對米英蘭戰爭企圖ヲ拋棄シ人
造石油ノ増産等ニ依リ現状ヲ維持スルノ
能否及利害判断
一、對米交渉ヲ續行シテ九月六日 御前會
議決定ノ我最少限度要求ヲ至短期間内ニ
貫徹シ得ル見込アリヤ
我最少限度要求ヲ如何ナル程度ニ緩和セ
ハ妥協ノ見込アリヤ、右ハ帝國トシテ許
容シ得ルヤ
十月二日米覺書ヲ全的ニ容認セル場合帝
國ノ國際地位就中對支地位ハ事變前ニ比
シ如何ニ變化スルヤ

右ノ考慮ノ開戦時期ヲ如何ニ定ムヘキ
右ニ關聯シ對米英蘭戰爭企圖ヲ拋棄シ人
造石油ノ増産等ニ依リ現状ヲ維持スルノ
能否及利害判断
一、對米交渉ヲ續行シテ九月六日 御前會
議決定ノ我最少限度要求ヲ至短期間内ニ
貫徹シ得ル見込アリヤ
我最少限度要求ヲ如何ナル程度ニ緩和セ
ハ妥協ノ見込アリヤ、右ハ帝國トシテ許
容シ得ルヤ
十月二日米覺書ヲ全的ニ容認セル場合帝
國ノ國際地位就中對支地位ハ事變前ニ比
シ如何ニ變化スルヤ

一、對米英蘭開戦ハ重慶側ノ決意ニ如何ニ
ル影響ヲ與フヘキヤ
(外、陸、海)

外務省

REEL No. A-1212

テハ之カ死文化ヲ執拗ニ要求シテ譲ラヌ茲ニ於テ政府ハ十一月二十
日乙案ヲ提示セシメ之レニ依リ交渉ノ妥結ヲ圖ル爲更ニ努力ヲ重
タリ

他方米國ハ交渉ノ内容ニ就キ英蘭支ト内面的打合ヲ行ヒツツアリシ
カ如ク十一月二十六日ニ至リ對案ヲ回答誠シタリ右回答ニ於ケル米

國ノ態度ハ極メテ強硬キシテ

(1)帝國陸海空軍警察ノ支那及佛印ヨリノ全面的撤兵

(2)滿洲國政府ノ否認

(3)三國同盟ノ死文化

等帝國ニ

國ハ万策盡キ

「對米英蘭開戦ニ關スル件」(昭和二六、二二、一) 御前會議ヲ經

テ決定セリ

開戦ヲ決シタル次第ナリ

ヲ強シ

(14)

因ニ十二月八日ヲ以テ武力發動ニ決シ居リタルモ若期日前ニ交渉妥
結セル際ハ聯合艦隊ハ勿論他ノ作戰部隊モ行動ヲ打切ルコトトナリ
居リタルモノナリ

米國ノ態度ハ極メテ強硬キシテ
全面的撤兵
滿洲國政府ノ否認
三國同盟ノ死文化

御前會議ヲ經
テ決定セリ
開戦ヲ決シタル次第ナリ

大東亞戰爭開戦経緯概説(案)

大東亞戰爭開戦経緯概説目次

- 第一節 滿洲事變及支那事變ノ性格
- 第二節 第二次近衛内閣ノ情勢ノ推移ニ伴フ時局處理ノ要綱決定
- 第三節 情勢ノ推移ニ伴フ時局處理ノ要綱ニ基ク政策ノ進展
- 第四節 日米交渉ノ開始
- 第五節 獨「ソ」開戦ニ伴フ帝國政策ノ確立
- 第六節 南郡佛印進駐ノ経緯
- 第七節 九月六日帝國政策遂行要領ノ決定
- 第八節 十一月五日帝國政策遂行要領ノ決定
- 第九節 十二月一日開戦決定

胡除

大東亞戰爭開始後之國際形勢
第一節 滿洲事變及支那事變ノ性格

滿洲事變カ日清日露兩戰後ノ結果公正ナル世界輿論支持ノ下獲得セル
帝國權益及在留邦人ニ對スル中華氏國ノ排日侮日政策ニ基ク計畫的不
法暴行爲ヲ排除セントスル目衛權ノ發動ニ基クモノナルハ今更贅言
ヲ要ヒサル所事變ノ發展ニ伴ヒ日滿漢蒙五族協和ヲ建國理令トスル
新滿洲國ノ誕生ヲ見ルニ至リ滿洲ニ於ケル治安ノ肅止、經濟ノ開發等
三十萬民生ノ向上看々見ルベキモノアリテ手續ニ徹シ滿洲事變ニ於ケ
ル帝國政策ノ基調カ共存共榮ノ道義ヲ具現セントスルニ在リンハ明カ
ナル所ナリ
帝國ハ滿洲國ノ獨立ニ伴ヒ茲ニ日滿支三國ノ共存共榮ヲ基調トスル東

亞ノ安定復興ヲ衷心ヨリ希求セルガ中華民國ノ排日侮日政策ハ徹底ト
ル抗日政策ニ一轉シ滿支接壤地域ニ於ケル紛争ハ帝國ノ堅持トシ
タル不擴大方針ニモ拘ラス遂ニ日支ノ全面衝突ニ發展シ事變解決ニ關
スル帝國ノ尋隣友好經濟提携共同防衛ノ三原則主張モ中華民國ノ容ル
ル所トナフス事變ノ長期化ニ伴ヒ東亞ノ植民地的現狀維持政策ヲ固執
スル不英ノ對支援助益々強化セラレ支那事變ノ解決ハ不英ヲ相手トス
ル世界政策ノ一變トシテ處理スルノ要愈々明フガトナルニ至レリ
滿洲事變從來ニ於ケル經濟諸般ノ運営ハ完全ナル不英依存ニシテ經
濟的依存ハ即政治的及軍事の依存タルヲ免レス戰略功利ノ大宗タル行
動ノ大部ヲ不英ヨリノ輸入ニ俟タサルベカクナルカ如キ此依存關係ヲ
脱却スルニアラサレバ自主自由ナル國等ノ遂行ヲ庶幾ン得ス是ニ於テ

仍予以⁽¹⁾世之⁽²⁾止⁽³⁾
X以才支那事變ノ早期處理ヲ為セントスルニ在リタリ而シテ其ノ⁽⁴⁾
ノ後如ク⁽⁵⁾
帝國ノ三國同盟締結カ經濟思想等各種ノ分野ニ巨ク透徹セル米英依存

脱却ノ決意力至⁽⁶⁾小東亞事變ニ於ケル對米英⁽⁷⁾
前提トスルモノニ⁽⁸⁾オシテ對米英⁽⁹⁾
外交攻勢ノ域ヲ出ケザルモノトスルハ⁽¹⁰⁾繼後ノ⁽¹¹⁾

連續總理ノ三國同盟條約ヲ以テ日本交涉⁽¹²⁾
トシカ⁽¹³⁾ニ⁽¹⁴⁾トシテ⁽¹⁵⁾ニ⁽¹⁶⁾トシテ⁽¹⁷⁾

遂行ノ柔軟性ヲ拘束シ⁽¹⁸⁾遂ニ三國同盟締結カ⁽¹⁹⁾米東亞戰爭ノ⁽²⁰⁾

トシテ⁽²¹⁾昭和十六年二月林閣外相ノ⁽²²⁾
交渉ノ要綱ノ決定ニ⁽²³⁾備即⁽²⁴⁾松岡外相ヲ⁽²⁵⁾

四月十日⁽²⁶⁾海軍大臣⁽²⁷⁾下⁽²⁸⁾中立條約ノ締結ニ⁽²⁹⁾

支那事變ノ急速處理⁽³⁰⁾ハ⁽³¹⁾ハ⁽³²⁾ハ⁽³³⁾ハ⁽³⁴⁾ハ⁽³⁵⁾ハ

駐⁽³⁶⁾英⁽³⁷⁾公使⁽³⁸⁾一⁽³⁹⁾時⁽⁴⁰⁾閉鎖⁽⁴¹⁾及⁽⁴²⁾之⁽⁴³⁾カ⁽⁴⁴⁾監⁽⁴⁵⁾視⁽⁴⁶⁾

爲軍事機關ノ「ビルマ」派遣ヲ⁽⁴⁷⁾應諾⁽⁴⁸⁾ヒシムル等⁽⁴⁹⁾對支⁽⁵⁰⁾壓迫⁽⁵¹⁾ヲ⁽⁵²⁾強⁽⁵³⁾化⁽⁵⁴⁾スル

昭和十五年十一月⁽⁵⁵⁾支那事變處理ノ要綱ヲ⁽⁵⁶⁾決定⁽⁵⁷⁾シ⁽⁵⁸⁾

汪精衛⁽⁵⁹⁾合作ノ⁽⁶⁰⁾立⁽⁶¹⁾前⁽⁶²⁾トシ⁽⁶³⁾日華⁽⁶⁴⁾基本⁽⁶⁵⁾條約⁽⁶⁶⁾ヲ⁽⁶⁷⁾締⁽⁶⁸⁾結⁽⁶⁹⁾ス

外⁽⁷⁰⁾對⁽⁷¹⁾支⁽⁷²⁾の⁽⁷³⁾進⁽⁷⁴⁾取⁽⁷⁵⁾ヲ⁽⁷⁶⁾強⁽⁷⁷⁾化⁽⁷⁸⁾スル⁽⁷⁹⁾

REEL No. A-1212

十六年五月 米例が 本又の言の如く「五港」維持を以てタリト
云ふに事案の及ぶ。日本海沿岸の何言も亦「五港」維持
ニ努むるに非ス。電報の交換の爲に全地マリト爲ス
北極を以て事案の如きは陸軍部及び近衛侯爵ハ……
……おまゝ傳へられ推進……不可成事ヲ爲す也ハナリ

REEL No. A-1212



トハ對重慶和平工作ヲ促進シ右不成立ノ場合ニ於テハ對支長期大持久
 戰ノ態勢ニ轉移シ國民政府ノ衛生強化ヲ囑ルト共ニ帝國國防ノ彈力
 ヲ恢復スルニ決シ次テ十一月三十日(1)滿洲國ノ承認(2)抗日政策ノ故
 事(3)友好共同防衛(4)北支蒙疆駐屯、海南島及南支沿岸特定地點艦船駐
 留(5)前項地點ニ於ケル國防上必要資源ノ開發利用(6)三角地帶ノ保障
 共ニ日支ノ緊密ナル經濟提携等ヲ骨子トスル日華基本條約ヲ締結セリ
 而シテ右決定ニ基ク對重慶和平工作モ遂ニ本國ニ歸テ帝國ハ決定方針
 ニ基キ對重慶和平工作ヲ長期持久態勢ニ轉移シ爾後大ナル施策遂行
 せんルコトナクシテ大東亞戰爭ニ突入せんルコトナリ
 時局處理ニ妥協ニ基ク帝國ノ南方發展ヲ支那事變處理ノ促進ト目給目
 足態勢ノ整備ヲ俾テ平和トシ能進平和的對外解決ヲ方針トセルハ勿論ニシ

テ平和的解決ノ非ノ地政的限度カ佛印及泰ニ止マル限ニ離シテハ大本
 營政府間概テ終結意見ノ一致ヒン所ナリ帝國ハ北部佛印進駐ニ依リ結
 束トシテ南方進出ノ方針ヲ示シタルガ昭和十五年十一月佛印泰國境紛
 争勃發スルヤ木英ノ佛印泰ニ對スル外交策動ノ機先ヲ聞シテ之ガ紛争
 ヲ調停ヲ冀メルト共ニ之ヲ機機トシテ佛印泰ヲ大東亞共榮圈ノ一景ト
 テ兩地政ニ對スル帝國ノ主動的地政ヲ確立シ一ハ以テ對重慶壓迫ヲ強
 化シ、一ハ以テ南方物資ノ取得ヲ容易トシ、一ハ以テ昭和十六年
 佛印泰實施方針ヲ決定シ米英ノ策謀ヲ排除シ極力外交施策ニ依リ帝
 國ト佛印及泰トノ軍事的政治的及經濟緊密結合關係ヲ設定スルニ決シ
 特ニ佛印ニ對スル帝國ノ政治的及軍事的要求トシテ佛印ト第三國トノ
 一切ノ關係ヲ政治的及軍事的不協力等ヲ約ヒシムトテ企圖ス